令和５年度

光が丘さくら幼稚園経営計画

練馬区立光が丘さくら幼稚園
園　長　　檀原　雅恵

今年度も各学年２学級ずつ、合わせて４学級のスタートとなった。若手４人の学級担任と介助員を始め、主事、事務、預かり保育補佐員など園児を取り巻く大勢の幼稚園のスタッフが「チームさくら」として「幼児期は人格形成の基礎を培う重要なものである」ことを念頭に関わっていく。一人ひとりの教職員が、他者との体験を積み重ね、多様な人との関わりの中で、それぞれの個性を生かし、温かい人間関係のもとで教育活動に取り組み、教育の質を高めていく。保護者、地域の方々に幼稚園が支えられていることに感謝し、幼稚園の教育への理解を得るための努力を惜しまず、子供たちを共に育てていく意識をもっていただけるよう力を尽くす。一人一人の幼児が、自己肯定感をもち　遊ぶことが大好き！　友達が大好き！　先生が大好き！　自分も大好き！と感じられる幼稚園を目指す。

１　目指す幼稚園

（１）　教育目標

○人権尊重の精神を基調とし、心身の健全な育成を図り、主体的に活動する幼児の育成を目指すため次の目標を設定する。

教育目標　　**・自分で考えて行動する子ども**
・思いやりのある子ども
・明るく元気な子ども

（２）教育目標を受けて目指す幼稚園を以下のようにする。

今年度の目標

『多様な人と関わる中で共に育つ、地域の中の幼稚園を目指す』

○幼児が夢中になって遊ぶ体験を重ねる中で、学びの芽生えを培うとともに、好奇心や探究心を養い自ら考え行動する幼稚園
○幼児一人一人が自己を十分に発揮し、大好きな　ひと、もの、こと　との関わりが深まる幼稚園
○一人一人の育ちのペースを大切にし、学びのプロセスを読み取り適切な環境構成、援助を行い、幼児教育の専門家として意欲的に研修に取り組み、高め合う教員、チームとして協力し合い、助け合う教職員がいる幼稚園
○幼稚園、保護者、地域が子供の健やかな成長のために、関係性を築き、共に幼稚園の教育活動を推進し育てる喜びを感じ、安心できる幼稚園
○地域の幼児教育施設・小学校・児童館・高等学校などとつながり連携していく幼稚園

２　中期経営目標（～令和６年）

（１）　幼児期の豊かな体験を保障し、「主体的・対話的で深い学び」につなげる幼児教育の実践
（２）　課題の発見と解決に向けて主体的、協動的に教育活動に取り組む喜びを感じる教員の育成
（３）　区立・地域の幼稚園としての子育ての支援を推進

（１）幼児期の豊かな体験を保障し、「主体的・対話的で深い学び」につなげる幼児教育の実践
① 豊かな感性と感覚・表現力を育む直接体験や自然体験ができるような環境の工夫
② ひと、もの、ことにじっくり向き合い夢中になって遊べるための時間、空間、仲間の保障
③ 健全な身体の成長を促す、基本的な生活習慣の丁寧な指導と心身の成長を促す遊びの工夫
④ 特別支援教育の充実、幼児一人一人の特性に応じた指導の充実

（２）課題の発見と解決に向けて主体的、協動的に教育活動に取り組む喜びを感じる教員の育成
① 協働性・共有を大事にしたチーム力を上げた保育の推進と教師一人一人の自己発揮
② 保護者や地域に園の教育の取組やプロセスや成果の「見える化分かる化」と連携を推進する教員
③ ICT 化を保育の充実・事務処理の効率化等に意識し、活用する教員
④ 「働き方改革」を意識し、能率のよい仕事の進め方

（３）区立・地域の幼稚園としての子育ての支援を推進
① 地域、保護者の幼稚園や教師への信頼感・安心感の構築
② 子育て相談事業の推進及び関係諸機関との連携
③ 地域とつながり、地域の教育力を幼稚園の教育に活用
⑤ 未就園児やその保護者に期待され頼りにされる取組の工夫
⑥ 子育ての相談・居場所となる地域の幼稚園
⑦ 幼保小連携教育の推進

３　令和５年度の達成目標と具体的方策

（１）　幼児一人一人が、自ら環境に関わり、主体的に遊びを楽しみ豊かに感じ表現する幼児を育む

・「夢や目標を持ち困難を乗り越える力を備えた子供たちの育成」（練馬区教育・子育て大綱の目標）や非認知的能力を育めるよう幼児が夢中になって遊び、試行錯誤し、学びの芽生えを培うとともに、好奇心や探究心を養い自ら考え行動する、身近な環境に主体的に関わり、諦めずにやり遂げる楽しさを感じ自己肯定感へつなげすべての子どものウエルビーイングを保証する意識をもつ保育実践のための環境構成と援助・指導の工夫を行う。
（第２次みどりの風吹くまちビジョン・練馬区教育・子育て大綱・週案・学年会・日々の記録・園内研修会等から保育の準備へ　幼稚園教育要領・令和の日本型学校教育・幼児教育と小学校教育の架け橋プログラムを参考　毎日）

・「遊ぶことが大好き！幼稚園大好き！友達大好き！　先生大好き！自分も大好き！」を実現する保育を展開し、自分自身や友達を尊重する気持ちや態度を養う中で人権教育を推進する。多様な人と関わる中で共に育つよう、友達への関わりでは、教師がモデルとなり認め合い受け止め合える集団を形成し、大切な存在であることを認識できるようにする。一人一人の個性に応じたきめ細やかな指導体制の構築（週案・学年会・日々の記録・行事の起案等　毎日）

・子どもまん中社会への実現として幼児が毎日喜んで登園し一人一人のペースで、生活習慣を体得し、元気にのびのび過ごせる安心・安全・安定した生活の流れの保障をする。（週案・学年会・日々の記録）

・個と集団の学びのプロセスを読み取りながら、記録の中から幼児理解と次なる環境構成・援助の工夫を導き出す。（週案・学年会・日々の記録・園内研修会　毎日）

・幼児の心を揺さぶる直接体験、自然体験を保障するための環境を創意工夫し、大好きなひと、もの、こととのかかわりが深まる幼稚園となるよう、一人一人の育ちのペースを大切にし、幼児期の育みたい３つの資質・能力を目指し、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（１０の姿）を意識した指導計画の作成と保育の展開を考える。（週案・学年会・日々の記録・園内研修会・幼稚園教育要領参考）

・多様な動きが体験できる環境、援助を工夫することでそれぞれの幼児が毎日楽しく体を動かすことができるように健康な心と体を育成する。（幼児期運動指針・区立幼稚園教育会・園内研究等）

・身近な人と心を通わせたり話に耳を傾けたりし、言葉への関心を高め、自分の考えを相手に伝えたり聞いたりして、言葉による伝え合いの喜びを感じる指導・援助の工夫、コミュニケーション能力の向上（週案・学年会・日々の記録）

（２） 教員一人一人が主体的・協働的に教育活動に取り組む喜びを感じる、教職員集団「チームさくら」

・一人一人が安心して自分の力を発揮できるように幼児に寄り添い、温かな学級経営が営めるために教員同士も幼児や保育について話す時間を作り、多面的に幼児や保育をとらえ、保育の充実を図る。また、相談し合える協動的な関係性の構築を図り、互いを尊重し合い主体的にチームで教育活動に向かう（学年会A・B、園内研修、トークタイム等）

・幼児の多様性を受け入れ、学級経営では園全体の協力・支援体制を整え、きめ細やかな環境構成・援助を行う。また、関係諸機関との連携や協力を図りつつ、一人一人のニーズに合わせた援助を行い、保護者の安心感につなげていく。更に、報告・連絡・相談・確認の徹底で、正確な情報共有、伝達、タイミングを逃さぬ対応でチームの信頼関係を築く。（介助員との連携・指導方針の共有、個別の支援計画・学級経営等　毎日実施）

・教員一人一人の持ち味を日々の保育で活かし、主体的に組織の一員として役割を意識し遂行すると共に、全体でもその力を発揮する。「得意分野の発揮」（月に１回は、発揮）

・教職員一人一人の記録の充実から、PDCAサイクルによる環境援助の方法を見直し、保育の更なる充実を図る。また、共有することで、更に全体の幼児教育の質の向上を目指す。（園内研究　日々の記録　等　毎日）

・幼児教育の質の向上を支える優秀な人材として教員に求められる資質能力としての使命感や責任感、教育的愛情、専門的知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力などを意識して着実なキャリアアップを図り、継続的に学び続ける意欲をもつ。

・ヒヤリハットの意識をもち危機管理マニュアル、地震対策の手引き、不審者対応の手引き学校情報セキュリティ対策ハンドブック、新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～、練馬区立学校（園）改訂版感染予防のガイドライン（新型コロナウイルス感染症）等を活用して、他人事ではなく、自分事として捉える危機管理の意識の向上
（月に１度点検）

・ICTやオンラインの活用により、働き方改革を推進し、自分や全体のタイムマネジメントの意識化、効率化を図る。ライフワークバランスを考え、自分の時間を大事にしながら、余裕のある日常をつくり、健全な心身を保持し、教育の充実のために意欲を高める。また、ICT活用した保育を幼児の豊かな経験につながるよう工夫し、直接体験と共に充実していく。（毎日）

（３）　幼児と子育て仲間と共に育つ喜びを感じる保護者・地域

○保護者との共育をつなぐために

・幼児と保護者と教員との幼稚園生活の中で、保護者が幼稚園教育に興味関心がもてる働きかけをしていく。保護者会、保育参加、参観、さくらトーク・こあらトーク・バースデートーク（様々な方法の園長とのグループトーク）などを通し、園の方針や幼児の育ちを知らせ理解と協力を得る。また、保護者同士の自然なコミュニティーの場作りを行う。（月に２回）

・保護者の悩みや不安に寄り添い、幼児の育ちを中心に保護者と教員が信頼関係を築き、子育ての悩みや喜びを共有できる教師や子育て仲間がいてホットとする幼稚園であり、家庭と共に育てる意識の醸成。発信だけではなく、保護者の思いを聞き取る、相談ができる環境を意識化する。（降園時の声掛け、個人面談等　週１回）

・子供たちの育ちを分かりやすく伝えるかわら版等の掲示物、クラス便り等の配布物、学級懇談会の

工夫、オンラインを含む ICT の活用等で教育内容の見える化、分かる化の伝え方の構築（２週に１回）

・サークル活動や、保護者向けの講演会、ボランティア活動、保護者会などを通して保護者同士をつなげ、共に育てる関係性の向上の支援（学期に１回）

〇地域とつながるために

・地域未就園児親子への“集いの場”としての親子さくらんぼ会、こあらの部屋の開放、保育開放、園庭開放等による子育て支援。児童館・区民館等を利用して子育て相談の場や園紹介などを行う管理職や修了生の保護者のボランティア（さくらサポーター）による保護者のニーズに応じた相談の機会。（月に２回以上）

・学校支援コーディネーターや学級連絡員の活用、民生委員、団地自治会等と学校評議員とのつながりにより学校地域連携事業の推進、児童館との交流機会の設定など地域の人材と繋がり教育力を向上と共に地域の中での幼稚園としての存在を高める。（学期に１回）

・近隣の幼保小の連携・接続の充実を図ることで円滑な接続を目指す。また、私立幼・保・小・中・高校・高齢者施設の交流連携により公立幼稚園の教育を積極的に発信し、理解を得る。（月に１度）

・保護者、地域が幼稚園に対し安全、安心、安定の 3 つの安を実感するよう、掲示物を分かりやすく、情報をこまめに伝える等の発信を行う。（適宜）

４、いじめ体罰への組織的な対応

集団生活のルールを分かるように伝え内面を揺さぶり自分から行動する幼児を育て、道徳性の芽生えを培う指導の充実を図る。

① 園の生活を楽しみ自分の力で行動できるきめ細かな指導
② 人への信頼感をもつとともに情緒の安定を図る
③ 規則正しい生活習慣を身につけ健康な体で心地よく生活を援助
④ ルールや約束の意味を理解し自分の気持ちを調整しようとする力を育てる
⑤ 友達の話を聞いたり思ったこと感じたことを話したりすることを楽しめる援助・指導
⑥ 困っている友達や自分と違う考えの友達を受け止め思いやりをもって接する指導
⑦ 教師が幼児のモデルになることを意識した指導
⑧ 人権の尊重の理念である自分の大切さと共に他の人の大切さを認める指導
⑨ 多くの目で見る、情報の共有。一人で悩まず管理職とともに教職員で連携し早期解決を図る
⑩ 保護者に対して幼児同士のいじめにつながる言動や対応等について啓発図り、共に育てる意識
⑪ 「人権教育プログラム」を活用した研修。

5　評価

（１）園・学級経営における自己の振り返り　（年２回　長期休業日前）

（２）教員による幼児の変容における評価
①期（4 月～7 月）（8 月～12 月）（1 月～3 月）指導記録
②週ごとの指導記録
・経験内容　・活動内容の意味付けを明確にする　・評価・反省・今後の援助の見通し
園内研究のテーマ
『一人一人が力を発揮できる学級経営を目指して』
③ 行事終了後、中間・年度末評価

（３）保護者による評価
① 行事終了後のアンケート、懇談会、個人面談、園長とのトーク
② 年度末アンケート

（４）学校関係者評価委員会（学校評議員会）
① 年間 3 回の実施
・3 回目の評議員会にて学校関係者評価を行う。

（５）評価の結果公表　3 月下旬